

# 絵本 Vol.4

## いいね!

今回の「いいね!な絵本」は

### 『かおはめえほん たすけてー!』

岡本よしろう 作  
あかね書房



今回のいいね!な絵本は、観光地やレジャースポットで人気の顔ハメが手軽に楽しめる

『かおはめえほん たすけてー!』をご紹介します。

著者の岡本よしろうさんは、絵本作家であるとともに、アーティストとして立体やインスタレーションも制作してきました。

今回は岡本さんと編集担当の榎さんに、絵本を描くようになったきっかけや、顔ハメ絵本を作った経緯と企画を実現させた合紙絵本について、語っていただきました。



岡本よしろうさん

## 絵本というより「コミュニケーションの道具」

表参道でやった展覧会で、穴から顔を出して写真を撮ると体が消えたように見える作品を展示したんです。観客が作品に入って、初めて完成する空間全体が作品というイメージで。その

**この絵本が生まれたきっかけを教えてください。**

その時に絵本は自由で面白いと思って作品をコンペに出したり、友人に出版社を紹介してもらったりしたのですが、なかなか仕事としては実現できず、でも、福音館書店の月刊『たくさんのふしぎ』の絵に声をかけてもらって、それから絵本の話が来るようになりました。

東京の美大卒業後に、美大で知り合った奥さんと二人で故郷の山口に帰って絵描きをやりました。親戚に子どもが生まれてプレゼントをする事になって、当時はお金がなかったんで、手作りの絵本をその子にあげたのが始まりです。

基本的には絵本作家になろうと思ったことはなかった(笑)。テレビっ子で、マンガもファミコンも好きで、絵本を見て育ってないんです。

**絵本作家になろうと思ったきっかけを教えてください。**

絵本作家として注目を集める岡本よしろうさんが、近年ブームになっている顔ハメ作品を絵本にしたきっかけについてお話を伺います。



顔ハメの千本ノックみたいなもので出してはボツになり、というのを繰り返して。穴と絵のバランスが難しかったので、実際に手作りの絵本を作って試しました。

**こだわりの実現するために工夫したことを教えてください。**

あとは本の構造的に、顔ハメの穴の下に、もうひとつ穴が出来てしまうのですが、ただの無地だと面白くないので、必然性を考えて絵を描いています。

顔ハメをすると、読むことができないので、絵はすべて困っている状況にしばらく、セリフも「たすけてー!」のみとしました。「怖い」「つらい」だけでなく、ポジティブな感覚を大切にしています。

**本作品でこだわっていることを教えてください。**

これらの展覧会を榎さんが見てくださって、今回の『かおはめえほん たすけてー!』が生まれました。



### いいね!な絵本を描いた人



岡本よしろうさん

1973年山口県宇部市生まれ。武蔵野美術大学油絵科卒業。絵画・立体・動画・インスタレーションなど、幅広く創作活動を行っている。絵を担当した絵本に『生きる』(福音館書店)、『100円たんけん』(くもん出版)、『おうち』(金の星社)など。『かおはめえほん たすけてー!』は自身初のオリジナル絵本となる。



岡本さん、ありがとうございます。

この本は絵本というより「コミュニケーションの道具」なので、親子や友達同士で顔ハメする人と見る人に分かれて、皆で一緒に盛り上がりたってもらえるのが嬉しいです。

**最後に読者の方へメッセージをお願いします。**

今回初めて合紙絵本を作ってみて感じたことを教えてください。顔をハメて遊べる絵本なので、これはもう「おもちゃ」ですよ。丈夫でなければならぬので、合紙絵本でやることになりました。絵を描く時に素晴らしいと思ったのは、ノド(本の綴じる部分)を気にしなくて良いところですね。普段はノドに絵が飲み込まれるのを考えないといけないんですけど、今回はのびのび描けました。



## 顔ハメは「大人があがる」面白さ

岡本さんの展示で出会った顔ハメは「大人があがる」面白さ。その真髓を絵本化したいと思いつきました。ピンチしぼりのアブナイ絵の数々を楽しみながらの編集。穴や紙の難題も、図書印刷の方々に企画当初から相談して見ごと形に。初の試みで手探りでしたが、今までにない、おかしな絵本になりました。

### 榎一憲さん

絵本編集者



### いいね! な絵本

を編集した人

### 榎一憲さん

あかね書房 編集 担当した絵本は『プレゼント、あけてみて!』(おおでゆかこ)、『みつけてくれる?』(松田奈那子)、『くいしんぼうのクジラ』(谷口智則)、『しんごうきピコリ』(ザ・キャビンカンパニー)、『やきそばばんばん』(はらべこめがね)、『めざめる』(阿部海太)など多数。



## 合紙絵本ってどんな絵本?

『かおはめえほん たすけてー!』は合紙製本という方式で作られたものです。この方式の特長は

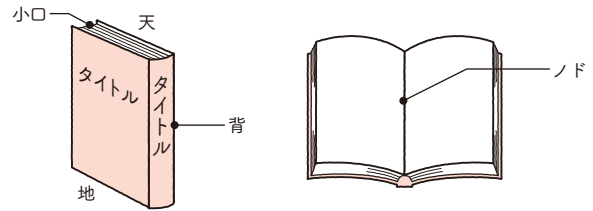
- ①隣同士、ページの裏側全体を貼りあわせて作っているので、普通の本より丈夫
- ②全部のページの開きが良く、読みやすい
- ③貼り合わせ方の工夫によって、仕掛けをつけることができるなどがあります。

読むだけでなく顔をはめて「遊ぶ」絵本なので、丈夫で開きが良い特長が、ぴったりと当てはまりました。

一体どうやって作るのでしょうか。

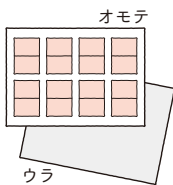
今回は簡単に合紙絵本の作り方をご紹介します!

その前に、本の部分の名称について軽く触れておきます。



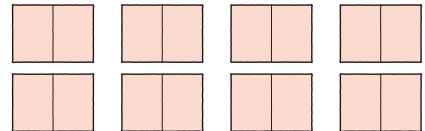
### ①印刷

普通の絵本に使う紙より厚い「板紙」という紙に、絵柄を印刷していきます。合紙絵本に限らず、本を作る時は大きい紙にたくさんの絵柄を印刷します。普通の本は両面に印刷を行います。合紙絵本は片面だけに印刷します。



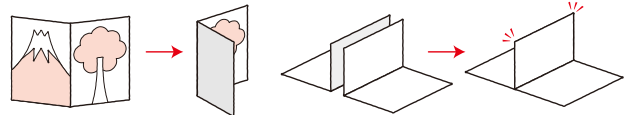
### ②断裁

①で印刷した大きな紙を、見開きごとに断裁していきます。



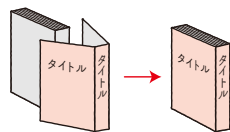
### ③折り、丁合

見開きに断裁したページは、まず絵柄を内側にして二つ折りにします。この作業のことを「折り」といいます。この折られたページを正しいページ順にまとめていく作業を「丁合(ちょうあい)」といいます。この時にページの印刷されてない面同士を糊で貼っていきます。だから①の作業の時には、片面しか印刷しないんです。これで、表紙以外の中身の部分が完成しました。



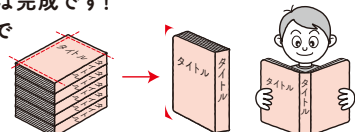
### ④クルミ

③で完成した中身のまわりに、表紙の紙を貼り付けます。この作業を「クルミ」といいます。ここまでくれば、完成まであと少しです!



### ⑤断裁(仕上げ)

最後に、絵本の天地、小口を断裁して、尖った角の部分を丸く落としていけば完成です! 角を丸くするのは尖った部分で読者が怪我をしないようにするためです。



『かおはめえほん たすけてー!』のお求めはお近くの書店等にお問い合わせください。

